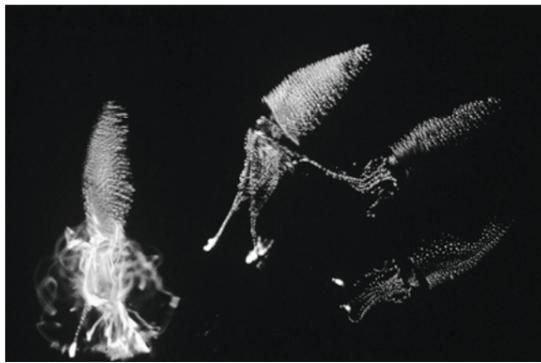


ひと・まち・産業が元気なまち滑川

滑川市は、富山県の中央部からやや東北寄りに位置し、富山湾に面し、東は早月川、西は郷川・上市川に囲まれ、清涼な河川水と豊富な地下水に恵まれた大地の下に位置しています。また、南東方向には壮大な北アルプスを背景に、加積山麓と呼ばれる旧扇状地の



神秘的な青白い光を放つ「ホタルイカ」

大地などにより形成された自然豊かな田園都市でもあります。清涼豊かな水が流れ込む富山湾には、神秘的な青白い光を放つ「ホタルイカ」が生息するとともに、その沖合は「ホタルイカ群海面」として、国の特別天然記念物に指定されております。

また、豊かな水資源を背景に、多種多様な企業が立地しており、平成22年における工業製造品出荷額は1872億円余りで、人口1人当たりでは約557万円と、富山県内では1位となっております。ものづくりのまちとしての一面もぞかせております。

子ども第一主義

少子高齢社会を迎え、核家族化が進むなど、子育ての機能が低下しつつある中、子どもたちを含め、

親の支援ならびに家庭および地域の教育の充実を図るため、平成22年4月から「子ども課」を教育委員会内に設置しました。これにより、幼稚園・保育園・小中学校に関することや各種手当の手続きも含め、子どもに関することはすべてワンストップで行うことができますようにいたしました。市民の利便性を高めることができ、好評をいただいております。さらに幼児期からの「食育」の推進、中学校修了前までの医療費無料化と併せ、将来の滑川を支える子どもたちを社会みんなで育む子ども第一主義を推進してまいります。

職員教育

市の土台である職員の教育をすべてに優先するという考えから、職員の行政認識と技術、人格の向上を目指し、職員教育に力を注いでおります。平成23年度には例年の5倍となる研修費を予算化し、外部講師を招いた研修会の開催や、先進地の視察を行いました。これらを通して新しい政策の立案や市政課題の解決などを図るほか、議会の行政視察にも職員を同行させ、どのように施策に反映させることができるかを視察先で議会とともに考え、迅速に市政への取り込みを行ってまいりたいと思っております。

全会計を含めた本市の職員数は240人(平成23年4月)であり、人口1000人当たりの職員数は7.08人と他自治体と比べて少ないながらも、少数精鋭と言われる職員形成を進めてまいります。本年も引き続き日本全国へ職員を派遣してまいりたいと考えております。

東福寺野自然公園

標高約300mの高台に、自然豊かな「東福寺野自然公園」があります。この公園には、札幌市にある時計台をそのまま2分の1に縮小した時計台があります。全国的にも有名な名曲「時計台の鐘」を作曲した高階哲夫先生が本市出身ということ、昭和54年に建設されました。「時計台の鐘」のメロディーは、毎日正午を告げる曲として市内全域に流されており、現在も市民の皆さんに親しまれております。また本公園には、NPO国際パ



ボランティアの力を借りて整備を進める「スポーツ・健康の森公園」

クゴルフ協会認定の起伏のある27ホールの本格的なパークゴルフ場をはじめ、バーベキュー施設や大型複合遊具、そして子どもたちに大人気のふわふわドーム、本物のSL機関車を先頭に客室5両を備えた宿泊のできるSLハウスなどが整備され、家族そろって一日のんびりと過ごすことができます。

スポーツ・健康の森公園

市の総合体育センターや室内温水プールなどに隣接する約8haの遊休地が長年そのままになっておりました。そこで、その土地に、多目的芝生広場、サーキットトレーニング場、長寿いきいき広場、ウォーキング走路、ランニング走路、400mトラック、防災施設などを備えた「スポーツ・健康の森公園」の整備に着手しました。「みんなで手づくり 健康と体力を育むスポーツ・健康の森公園」を基本コンセプトに、可能な限りお金を掛けず手づくりで整備することを基本としております。設計の段階から業者委託はせず、できる限り市職員が自ら設計を行い、多目的広場の芝生張り、ボランティア約850名で行いました。これから

プロフィール

- ◆ 面積 54・61km²
- ◆ 人口 3万3682人
- ◆ 世帯数 1万1580世帯

〔将来都市像〕ひと・まち・産業が元氣なまち滑川

〔まちの特徴〕清らかな水が流れる早月川の扇状地に位置し、さわやかな大気と美しい緑、実り豊かな大地に恵まれたまち



滑川市長
上田昌孝



〔特産品〕ホタルイカ、海洋深層水、りんご、ぶどう

〔観光〕東福寺野自然公園、行田公園、ほたるいかミュージアム、深層水体験施設タラソピア

〔イベント〕ほたるいか海上観光、ふさと龍宮まつり、ネプタ流し

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

あなたが活かす、みんなで育む、安全と安心のまち 本庄 〽世のため、後のため〽

はじめに

本庄市は、平成18年1月に旧本庄市と旧児玉町が合併して誕生しました。埼玉県の西北部、東京から約80kmの距離に位置しており、市内には、JR高崎線・八高線・上越新幹線、国道17号・254号・462号、関越自動車道などが縦横に交差し、関東北部の交通の要衝として商工業の集積が進んでいます。さらに、肥沃な農地や豊かな水にも恵まれ、ネギ、キュウリ、大和芋、ナス、タマネギをはじめ

とした野菜の産地として新鮮な農作物を首都圏などに出荷しています。そして、平成22年7月には、本市と美里町、神川町、上里町により「本庄地域定住自立圏」が形成され、その中心市としての役割も果たしつつあります。

10月から12月にかけてパリで開催される「笑いの日本美術史 縄文から19世紀まで」展に、縄文時代の土偶や近世の浮世絵などとともに出展されることになっています。

となるとともに、地域社会に揺るぎない信頼を持ち、後世にわたって長く暮らしたくなるような「誰もが憂いなく安全で安心して暮らせるまち」をつくっていくことを表現しています。

本庄市の将来像

また、本市は、北に利根川が流れ、南西部は陣見山や不動山をはじめ500m級の山々が連なるなど、豊かな自然にも恵まれています。さらに、広範囲に広がる原始・古代遺跡、江戸時代に中山道一に栄えた宿場町としての面影を残す町並み、蚕産や繭の集散地として栄えた近代の建築物など、多くの歴史文化遺産も有しています。

ちなみに、本市から出土した「笑う盾持人物埴輪」は、本市のマスコットキャラクター「はにぼん」のモデルにもなっていますが、平成24年

本市では、平成20年3月に10年間を計画期間とする本庄市総合振興計画を策定しました。その中で本市の将来像を、江戸時代に群書類徒を編さんし、また和学講談所を創設した本市輩出の偉人塙保己一先生の残した言葉「世のため、後のため」をまちづくりの基本的考えとして取り入れ、「あなたが活かす、みんなが育む、安全と安心のまち 本庄 〽世のため、後のため〽」と定めました。

市内の上越新幹線本庄早稲田駅周辺地区は、地方拠点法により、本市、美里町、神川町および上里町で構成する本庄地方拠点都市地域の研究開発交流拠点に位置付けられており、現在、この地区で新しいまちづくりが進められています。駅南側の緑豊かな約65haの早稲田リサーチパークでは、早稲田大学大学院の2つの研究科や早稲田



本庄市出土「笑う盾持人物埴輪」

大学本庄高等学院のほか、早稲田大学リサーチパークコミュニケーションセンター、インキューベーションセンター、キャンパス本庄早稲田などが開設されていて、「産・学・官・地域」の連携による人材育成や新産業の創出などの研究・実践が行われています。

また、駅北側では、商業、産業用地を中心とし、周辺に住宅用地を配した約65haの土地区画整理事業が独立行政法人都市再生機構の施行により進められています。

市では、両エリアを連携させながら、豊かな自然環境と調和し、後々まで人々に親しまれる新たな本庄の顔としてのまちづくりを「本

した省エネなどに取り組むことにより、エネルギーの地産地消などを具体的に進めるモデルを全国に発信していくという「埼玉エコタウンプロジェクト」に取り組んでいます。本市は、平成24年5月1日に、このプロジェクトについて市全域で包括的にエコタウン化を進めていく実施自治体として埼玉県から選定を受けました。

本市は、これまでも平成20年に環境宣言を行い、身近なところから環境にやさしい行動を取り、その輪を地域全体に広げていくという取り組みや、早稲田大学と連携しながら環境共生に関する施策を検討、実施してきました。今後、それらをさらに継続・発展させながら、本庄早稲田の杜地区を中核エリアと位置付け、電気・熱利用の分散エネルギー管理制御システムの実証実験、スマートハウス・スマートマーケット・スマートオフィスなどの整備の促進を行い、そこから得られた成果を積極的に市内全域に広げていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 89・71㎓
- ◆ 人口 8万587人
- ◆ 世帯数 3万2801世帯

〔将来都市像〕あなたが活かす、みんなが育む、安全と安心のまち 本庄 〽世のため、後のため〽

〔まちの特徴〕歴史にはぐくまれた伝統文化が息つき、豊かな水と緑に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成18年1月10日に本庄市と児玉町による合併

〔特産品〕ネギ、キュウリ、大和芋、ナス、タマネギ、菓子など



本庄市長
吉田信解



〔観光〕武州本庄七福神、旧本庄警察署、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、塙保己一記念館、塙保己一旧宅、競進社模範蚕室、骨波田の藤、あじさいの小路など

〔イベント〕開運！武州本庄七福神めぐりと本庄名物「つみっこ合戦」本庄早稲田の杜クロスカントリー&ハイフマラソン大会、こだま夏まつり、みどり、祇園まつり、こだま夏まつり、本庄まつり、こだま秋まつりなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



多くの人でにぎわう「本庄まつり」

エコタウンの推進
埼玉県では、再生可能エネルギーを中心とした創エネと徹底

むすびに

本市においても少子高齢化や扶

霊峰「富士山」の麓に広がる高原都市

はじめに

御殿場市は、静岡県の東北部に位置し、西には霊峰富士を望み、東は箱根外輪山に囲まれた、美しい自然に恵まれた高原都市です。

また、東名高速道路によって首都圏からは約1時間の距離にあり、箱根、富士五湖との接点でもあることから、交通の要衝としての利便性も併せ持ち、年間約1300万人の方々に訪れていただいているとともに、多くの企業が交通アクセスの良さに加え、豊かな地下水と新鮮な空気を求め、本市に工場や事務所を構えています。

御殿場型NPM

地域主権のますますの進展をはじめ、自治体を取り巻く社会環境、経済環境は著しく変化しています。

「想」を策定し、キックオフ宣言を行いました。

人口が増えていく「安全・安心なまち」を目指して

本市は、恵まれた自然環境・立地条件と、併せて、「新東名の開通」「富士山世界文化遺産登録」といった外的プラス要因をフルに活用することによって、これから将来、まだまだ大幅に人口を増やすことができる、国内でも限られた地域であると考えています。そのために、人口が増えていく「安全・安心なまち」を目指して、次のような施策に力を入れています。

1点目は、「経済活性化」です。経済活性化を図るためには、地域の



地域を代表する祭り「御殿場わらし祭り」

のにぎわいを創出することが第一です。そのために「観光ハブ都市」を目指して、既存の観光資源の掘り起こしや「御殿場みくりやそばをはじめとする御殿場ブランド

特に大幅な税収の減少などにより、財政状況は大きな影響を受けています。このような中、本市では、市民本位の行政サービスの提供に努め、効率的な行政経営を実現するために、民間の経営理念や経営手法を効果的に取り入れながら、戦略的な事業展開やそれを実施する職員の意識改革、マネジメント能力の向上、さらに市民協働などを連携させながら進める「御殿場型NPM」の理念の下、事業を進めてまいります。

観光ハブ都市づくりの推進

本市は、富士山や豊かな自然環境に恵まれている上に、箱根・富士五湖といった全国的に有名な観光地に隣接し、また、御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場高原時之栖などの大型集客施設の立

地もあって、観光交流人口は順調

に増加し、現在、静岡県内では静岡市、浜松市に次いで第3位の規模となっております。平成25年には富士山世界文化遺産登録が予定され、平成32年には新東名高速道路の御殿場インターチェンジ開設が予定されていることから、さらに観光交流人口が増加することが予想されます。しかし、本市の観光形態の現状は大型集客施設での誘客力は強いものの、お客さまの多くはその拠点のみでの観光にとどまり、市内にある多くの魅力ある観光資源を十分に生かしきれないという課題を抱えております。

このようなことから、平成23年4月に富士山体験学習施設「富士山樹空の森」を新設し、ここを拠点に、既存の観光資源とのネットワーク形成によって、観光客の方々



平成12年にオープンした「御殿場プレミアム・アウトレット」

の育成・開発を進め、「御殿場らしさ」「御殿場ならではの」を市内外に広くPRすることで、魅力あるまちづくりを推進しています。

また、本市の立地条件を生かした企業誘致や緊急経済対策などを実施して、最終的には、市民の皆さまが安心して生活できるよう職を創出し、雇用の場を確保していくことに取り組んでいます。

2点目は、「地域医療体制・子育て支援の充実」です。市民が健康で安全・安心な生活を築くためには、まず地域医療の充実を図ることが重要です。少子高齢化が進む中で、子育て支援の充実を力を入れて取り組み、子ども医療費助成をはじめ、子育てしやすい環境づくりのための支援をしています。

3点目は、「危機管理体制の強化」です。市民に対して、災害時における正確な情報の発信・受信ができるような情報体制を確立していくこと、さらに自主防災組織を強化するために防災リーダー育成支援をしています。

ほかにも市が取り組んでいるかなければならない施策や課題は、まだまだ多くあります。しかしながら、これらの課題は課題であると

同時に、解決していくことにより、御殿場市の大きな魅力となり、さらなる住みやすさにもつながります。安全・安心の確立の下、外的要因をフルに生かし、職の創出により雇用を促進することで、「人口が増えていくまちづくり」を進めていきます。新たな雇用創出が生まれば、若者が集い、そこには、必然的に、結婚、子育てがあり、そして、人口が増えることによる「活力ある元気あふれる街づくり」

につながるからです。

結びに

地域主権が叫ばれている中、地方自治体の責任、裁量はますます増えてまいります。この状況をしっかりと認識し、市民の皆さまの幸せを最優先に考えた上で、市民の目線で、市民の皆さまと一緒に、「笑顔と活力あふれる御殿場」の実現のために、一つ一つの課題に全力で取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 194.85 km²
- ◆ 人口 8万8071人
- ◆ 世帯数 3万4108世帯

〔将来都市像〕緑さらさら、人いきいき、御殿場

〔まちの特徴〕日本一の富士山と箱根外輪山に囲まれた、清らかな水と豊かな緑に恵まれた高原のまち

〔特産品〕御殿場みくりやそば、水かけ菜、わさび、手作りハム、ごてん



御殿場市長 若林洋平



〔観光〕富士山、富士山樹空の森、秩父宮記念公園、東山旧岸邸、富士山御胎内清宏園、駒門風穴など

〔イベント〕御殿場わらし祭り、富士山太鼓まつり、富士山開山式、御殿場桜まつり、富士山スカイドリームス、富士登山駅伝競走大会など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

大河に育まれた木の匠のふるさと

はじめに

大川市は福岡県の南西部に位置し、古来から日本人が畏敬と親しみを込めて筑紫次郎と呼び習わした筑後川の、物なりの良いデルタの上にあります。

ゆえに、山も丘もありません。真っ平らな緑の沃野の中をクリークが縦横に走るさまはオランダにも似ています。

祖先たちはこの大地に稲を植え、麦を播き、イ草を刈り、木工業を立ち上げて生業としてまいりました。

大筑後川を下ればすぐ有明海に至り、さらに下って不知火海を抜ければ東シナ海が広がります。

まっすぐ真西に進めば、揚子江河口の寧波あたり。面舵を取れば朝鮮半島の南岸に至るロケーションは私どもに何かを感じさせてきました。

1800年余の歴史を持つ古神社は本市の総鎮守ともなっていて、周りの遺跡からは大陸・朝鮮との濃厚な交わりを思わせる遺物が出ます。

1800年前といえは卑弥呼の時代であります。少し上流には吉野ヶ里の遺跡があり、この辺りまで含めて弥生の大邑を成していたのかもしれない。

かつての時代、この地には大陸・朝鮮との交易を盛んにする海洋民族が蟠踞していた痕跡があり、玄界灘ルートとは別にアジアにつながる一大窓口であったような趣があります。

なぜに木工業

本市は優れた家具建具の産地として生きてきました。匠たちが研ぎ澄ました鑿の刃先を無垢の木肌に押しあて、感性豊かに木の品々を彫

り出し、削り出してきたのです。

まさに、メイド・イン・大川の誇りとともに生きてきたといえます。

山もなく丘もなく、よって森も林もないこの地になぜに木工の生業が立ち上がったのか。すべては母なる筑後川であります。豊後日田の杉材を筏に組み、河口のこの辺りにためて、まずは造船業を立ち上げました。

初めのころは漁舟のたぐいでしたが、技術の蓄積とともにやがて熊本、薩摩など大藩から百石を超す大船の注文を受けるようになったといわれています。

筑後川を下って有明海に入ればすぐに熊本領、不知火海を抜ければ薩摩領、地の利といえました。

造船の技術はやがて木製農具の領域に技術のウイングが広がり、

指物の技術と出合って家具建具の一大産業が立ち上がったのです。

最初の漁舟をつくり始めた人々がいます。約470年前、遠州から落ちてきた戦国武士の団がいて、その長を榎津久米之助といい、配下の諸将を食わせるために漁舟づくりを始めたのが礎とされています。

三つ半の誇り、母なる大河

それぞれのまちには、それぞれの誇りの種があります。祖先が紡いだきた悠久の歴史の中で、多くの物語が叙事詩のように語り継がれてきました。

国もまちも民族の叙事詩、住民の叙事詩を語り継ぐ限り、衰亡することは無いといわれています。逆もまた真なりであるようです。

本市は昭和の大作曲家、古賀政男のふるりの地でもあります。このほかに全国に誇れるものが少なくとも3つあります。

一つは日本一の木工のまちとしての自負、二つ目は卑弥呼の時代に

もつながら悠久の歴史、そして3つ目は筑後川をまたぐ昇開橋と縦断する導流堤(通称デ・レーケ堤)。

昇開橋は文字通り、橋の真ん中が上下にスライドして船を通す構造の鉄道橋でした。有明海は6mの干満の差があるのです。

昇降のメカニズムが斬新で、姿が秀麗なことから機械遺産(社団法人日本機械学会)に認定され、国指定の重要文化財ともなっています。

導流堤は筑後川の流心に築かれた6kmもの長大な石堤ですが、上流からの砂によって川の航路が埋まらないよう、流心部の流速を速くするための工夫でした。

築造は明治20年代といえますか



土木遺産に認定された若津港導流堤(通称デ・レーケ堤)

ら、日清戦争のころになります。基本設計はオランダ人のデ・レーケという人が行い、施工は地元石工集団がやりました。重機のない時代、どういう技をつかって築いたのか。

暴れ川の典型ともいわれる筑後川の奔流に耐えて120年、基本設計の優秀さと施工技術の確かさを証明しています。

この三つの誇りはすべて、母なる筑後川に収れんいたします。

寒風を突いて咲く

本市は野の幸、川の幸、海の幸にも恵まれ、感性豊かに木のものづくりにいそしんでまいりました。

四季折々に移ろう美しい日本の自然の中で、2000年の時を費やして熟成された感性ともつくり込みに没頭するDNAは日本人固有の美質と信じます。

日本人がものづくりに没頭すると、どうなるか世界はよく知っています。良きものを手抜きなしで作り込む。大川は木のものづくりに誇りを掛けてまいりました。

グローバル経済の下、地場産業を持つまちはどこも厳しい状況にあります。近隣アジアからの安価

な輸入物は、脅威であります。伝統の技の上に優れた感性を乗せて生み出す家具建具は絶品です。

「日本人が作った家具って、こういうものを云うのですね!」消費者の驚きの声が聞こえてきます。

厳しい時代であればこそ、民と官と学が燃りあつて強い絆をつく

プロフィール

- ◆面積 33・63km²
- ◆人口 3万7296人
- ◆世帯数 1万3154世帯

〔将来都市像〕活力、誇り、人を育む水と緑のまち 川郷 おおかわ 大河に育まれた木の匠のふるさと

〔まちの特徴〕筑紫次郎と呼ばれてきた日本の大河筑後川がはぐくんできた緑が輝く自然の風景、有明海の豊かな海の幸、木の匠の技が織りなす芸術性豊かな木工の数々

〔特産品〕家具、建具、イ草、花ござ、畳表、大川組子、大川彫刻らんま、大川伝統工芸品、あまおう、福岡のり、かまぼこ、エツ、旅出しうなぎ、



大川市長 植木光治



川アンコウ、地酒、酢製品、いちじく、観賞魚(錦鯉、金魚)など

〔観光〕昇開橋、風浪宮(風浪神社本殿)、古賀政男記念館・生家、旧吉原家住宅・資料館、清力美術館など

〔イベント〕えつ供養祭、古賀政男命日祭、春の大川木工まつり、肥後街道宿場を歩く、大川市民夏まつり、大川花火大会、大川街角ほっとコンサート、大川木工まつり、大川環境王、大川市総合美術展、古賀政男生誕祭&大川音楽村まつり、裸ん行、大川木の香マラソン大会、古賀政男記念「大川音楽祭」など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。